



日本イーストウエストセンター同友会

The Japan EWC Association

ニューズレター 第8号

ご挨拶

三 和 義 彦



昨年12月の総会で、皆様のご推挙により、不肖をも顧みず、会長をやらせて頂くことになりました。日本イーストウエストセンター同友会 (JAPAN EAST-WEST CENTER ASSOCIATION, 略称、JEWCA) の名誉ある伝統を引き継ぎ、幹事の皆様と共に、会員各位のご期待とご要請をどのように具体化していくか、いろいろと考えながらも、身の引き締まる思いです。

JEWCA が、昭和57年1月1日から施行された現行の会則によって運営されて以来、今年で11年目を数えます。この間、皆様にお送りしました会員名簿は5回にわたって改訂され、昨年3月にお届けしました名簿には、1,000人に近い方々の氏名、職業、住所が、日本語と英語で記載されています。

名簿の整理と充実が、会員相互のコミュニケーションと親睦を深める原動力となっていることは間違いありません。この10年の間、名簿の作製に尽力された担当者の方々に、心からの敬意を表すると共に、今後も皆様からのご協力を頂いて、名簿の充実に努めたいと思います。

一方、昨年度には、会員の皆様から納入して頂いた年会費の総額が、はじめて100万円の大台を超えたことはうれしいニュースです。年会費の額は5,000円です。従って、計算のうえからは、200人を上回る会員の方々に会費を納入して頂いたこととなります。

このほかにも、一部の会員の方々からは、会の運営の一助にと、折にふれてご寄付を頂いております。まだ、決して十分とはいえない財務状態によってたつ会の運営からみれば、こうした方々のご好意が、まさに“旱天の慈雨”であることは申すまでもありません。この機会に、厚くお礼を申し上げると共に、会員の皆様にも、あわせて、今後、さらに一層のご支持とご協力をお願いする次第です。

会員相互のコミュニケーションと親睦を深める一助として、会員の有志の方々、さらに内外の名士をお招きして、講演会や懇談会を開いてきたことは、皆様ご承知の通りであります。こ

ご数年にわたって、講師としてそれぞれにお招きした近藤労働大臣、柿沼外務政務次官、アマコスト駐日米国大使、ブリア駐日米国筆頭公使、中村敦夫氏らの方々の講演や皆様との対話が、ご好評を頂いていることは、ご同慶の至りであります。今後も、こうした企画をさらに前進させたいと思います。

JEWCA のこのような活動については、毎年2回発行しているニューズレターによって、皆様に洩れなくご報告しています。われわれが、日本で発行しはじめたこのニューズレターが、ハワイの本部をはじめ名国のチャプターでも注目され、同様の刊行物が、あちこちで発行されたことは、大きな喜びでもあります。

ニューズレターの発刊以来、この作成、発送に尽力されてきた幹事の皆様に感謝すると共に、今後も財政事情の許す限り、皆様のご協力により、その内容の充実に努力したいと思います。

以上、ご報告しましたように、会の運営が年を経て活発になってきたことは誠に同慶の至りであります。が、同時に事務量の増加と共に皆様へのご連絡、それに対するご質問、ご要望などの件数も増加の一途をたどり、事務局の方々は、日々、それらの対応と処理に追われてうれしい悲鳴をあげているのが、昨今の実情です。

この機会に、今後のさらなる会の発展に備えるため、事務局の充実に對する皆様のご支持とご協力をお願いする次第です。

ところで、こうした会員名簿やニューズレターの作成にあたっては、それぞれの紙面に掲載されている広告、あるいは用紙の提供を通じて、いろいろな企業からもご協力を頂いていることは、皆様ご承知の通りであります。一方、長年にわたって、年間数回、開催される幹事会の会議場を無料で提供して頂いている日本大学経済学部のご好意も、決して忘れることはできません。ここに、あらためて、心からのお礼を申し上げますと共に、こんごもより一層のご協力をお願いする次第です。

三和義彦氏の略歴

一橋大学社会学部卒業
兼松株式会社
産経新聞社会部
ロンドン駐在欧州移動特派員
ロンドン大学 LSE 留学
Thomson Foundation
第12回新聞講座卒業
産経新聞経済部
日本工業新聞経済部
ハーバード大学国際問題研究所 (CFIA) 高級研究員
兼ハーバードロースクール法律問題プログラム客員研究員
日本工業新聞外信部長
同社編集局編集委員 (国際問題担当)
野村総合研究所
昭和56年、JEWCA の幹事に就任
58歳

さて、ハワイの EAST-WEST CENTER では、10余年にわたって PRESIDENT を務められた VICTOR HAO LI 博士が退任され、会年1月からはミシガン大学で中国・アジア問題の教授として高い評価を博しておられた OKSENBERG 博士が、新しい PRESIDENT に就任されました。

LI 博士は、CENTER の改組と発展に努力される一方、役員各位ともども、JEWCA の成長と発展にも深い理解を示され、さまざまな面でのご協力を頂きました。ここに皆様と共に、博士への感謝と惜別の意を表したいと思います。

一方、OKSENBERG 博士を迎えた CENTER が、そのリーダーシップの下に新しい発展を上げられることは間違いありません。われわれも、いろいろと新機軸を打ち出されている博士への期待を込めて、分相応の協力を最大限に進めたいと思います。

1991年度総会開催さる

去る12月7日(土)午後6時30分から東京・学士会館において1991年度日本イースト・ウェストセンター同友会総会が開催され、出席者14名、委任状多数をもって成立しました。冒頭、太田会長から会員名簿の発行、EWC タイ国際会議への出席など1991年度の事業報告が行われました。また、関西支部を代表して出席された中山行弘氏からは、関西における活動内容が紹介されました。引き続き、事務局の浜野より1991年度会計につき、216名の方から会費納入があったこと(ご氏名を別記いたしました)、また(株)JR 東日本はじめ多くの企業よりご寄付をいただき、名簿発行が可能となったことなどを報告し、収

支が承認されました(詳細別記)。

総会終了後は本会顧問山下勇氏より「国際環境下における JR 東日本の現状と将来展望」と題する講演が行われました。JR 東日本が基本的には国内交通でありながら意外なところで国際活動を行っていることが紹介され、出席者からも活発な質問がよせられました。なお、講演の要旨を川畑泰氏にまとめていただき、本号に掲載いたしました。本年は出席者が少ないのが残念でしたが、なごやかな歓談がつづき、9時過ぎ散会いたしました。(浜野 潔)



前列左から、三和会長、山下顧問、太田前会長

日本イーストウェストセンター同友会会計報告——1991年度
(1990年12月1日～1991年11月30日)

収入の部	繰越金	¥647,806	
	年会費	¥1,068,000	(本部会員) ¥5,000×210=¥1,050,000 (支部会員) ¥3,000×6=¥18,000
	90年度総会会費	¥138,000	(¥6,000×23名)
	インゲ女史歓迎会会費	¥30,000	
	広告料(会員名簿)	¥840,000	(東日本旅客鉄道) ¥300,000 (野村証券) ¥200,000 (ジャパンタイムズ社) ¥150,000 (研究社出版) ¥100,000 (博多大丸) ¥30,000 (東京書籍) ¥30,000 (ホテルギンモンド) ¥30,000
	寄付金	¥6,974	
	銀行利息	¥2,574	
合計		¥2,733,354	
支出の部	90年度総会会場費	¥124,630	
	インゲ女史歓迎会会場費	¥35,298	
	名簿印刷費	¥796,600	
	名簿発送費	¥260,310	
	ニューズレター第6号印刷代	¥139,771	
	ニューズレター第7号印刷代	¥148,320	
	ニューズレター第7号封筒代	¥30,900	
	ニューズレター第7号発送費	¥85,560	
	会費振込用紙印刷代	¥10,000	
	1991年総会通知葉書代	¥90,400	
	インゲ女史講演謝礼	¥30,000	
	関西支部講演謝礼	¥60,000	
	タイカンファレンス寄付	¥69,700	
	事務経費(文具代など)	¥25,781	
	事務通信費	¥21,069	
	送金費用(振込料など)	¥3,537	
合計		¥1,931,876	
	次年度への繰越金	¥801,478	

1991年12月7日

上記の通り相違ありません。

会計 浜野 潔 ㊦
会計監査 鑑江 龍一 ㊦

JR 東日本の現状と将来展望

——国際環境の中で——



講演：山下顧問

展望

1991年12月7日に開かれた日本 EWC 同友会総会で、顧問をお願いしております東日本旅客鉄道株式会社 (JR 東日本) 会長の山下勇さんより上記の表題で講演をしていただきました。以下はその要旨です。

国鉄から JR へ

旧国鉄時代は途中に新幹線という技術革新がありました。自動車、飛行機などの周辺交通手段が発展し、国鉄の赤字が発生・増加し、内部的には不安定な労使関係、志気の喪失がありました。今から4年前、国鉄には15兆5000億円の繰り越し欠損と25兆円の借入れがある状態だったのです。行政改革の流れの中で、国鉄は6つの旅客鉄道会社とひとつの貨物鉄道会社に分割されました。新幹線は新幹線保有機構のものとなりましたが、1991年10月1日付けで、JR 東日本と JR 東海が総額9兆1000億円で買い取りました。

技術革新と国際化

われわれは、新幹線を延ばす計画を持っていますが、これに合わせて在来線を広軌化するという問題があります。この場合、トンネルなどの問題がありますので車輛限界はもとのままでこれに合う小さい車輛を使う予定です。技術的問題がでてきますので、1991年4月から使節団をヨーロッパ、アメリカ、カナダ、ブラジルなどに送りました。その結果、枕木を韓国から、クランプをイギリスから、車輛の一部をブラジ

ルから輸入することになりました。パンタグラフはフランスのものを実験中です。いいものがあったら買うという方針です。車輛もどんどん新しくしており、ジーゼルカーなども3年以内に全部変わります。二階建ての通勤車を導入し、近い将来、新幹線を全部二階建てにしたいと思えます。また、鉄道事業では保線が大事な仕事です。スイス、オーストラリアから保線用機械を購入し、これをレンタルで下請けに貸すというシステムを構築しようとしています。悪い砂利を取り、新しい砂利を入れ固める機械が2億円、レール交換の機械が17～18億円かかります。21世紀までに日常の保線業務をほとんど機械化したいと思っています。ここでも、海外企業と手を結ぶ必要があります。

JR グループには鉄道総合技術機構というものがありませんが、新幹線技術開発以後、技術レベルが沈滞しております。現在、この機構には500人の技術者がおりますが、半分が超電導技術の研究・開発に従事しております。のこりの250人が一般の技術革新に使えるということになります。寄付講座を東京大学の機械工学科に開設しました。東北大学、東京工業大学とも話をすすめています。マサチューセッツ工科大学には200万ドルで East JR・Professorship を開設します。テネシー大学、ストックホルム商科大学には委託研究をしてもらうようになっています。

21世紀の JR

ライフ・スタイルの変化——情報化・地方の都市化——がわれわれに変化を強めています。

鉄道を comfortable なものにしていかなければなりません。現在は、飛行機との競争がありますが、競争しながら相互補完したいと考えております。鉄道に荷物を預けると空港へ荷物がすっと運ばれていく、というシステムを作りたいと思っておりますが、空港での荷物検査がネッ

クになっています。現在、JR 東日本の年間売上は 1 兆 8000 億円、関連会社の売上が 1 兆 5000 億円ありますが、これを鉄道で 2 兆 5000 億円、関連企業も含めて 5 兆 4000 億円にしたいというのが 21 世紀の目標です。(まとめ、川畑 泰)

1992年度日本イーストウェストセンター同友会幹事

名誉顧問	井 深 大	ソニー(株)ファウンダー名誉会長
顧問	山下 勇	東日本旅客鉄道株式会社取締役会長
	竹内 一 樹	日本大学経済学部長
	高沢 義行	ノルディックジャパン代表取締役
会長	三和 義彦	野村総合研究所
副会長	馬場 房子	(事務局担当) 亜細亜大学経営学部教授
	永井 健	(総括) リンテック(株)海外本部、事業管理部長
	寛 壽 雄	神戸大学文学部教授
担当幹事		
渉外	飯沼 健 真	読売新聞社編集局次長
	三浦 徹	横浜東急ホテル料飲支配人
組織	大山 綱夫	恵泉女学園短期大学英文科教授
	斎藤 勝彦	石炭資源開発株式会社取締役
	田代 成義	鹿島建設(株)国際事業本部専門部長
企画	太田 幸夫	グラフィックデザイナー・多摩美術大学講師
	仲野 英志	テキサスインスツルメンツ取締役事業部長
広報	渡辺 晴子	H. K. W.・アジア新聞財団代表
	梅田 純一	日本経済新聞社編集局国際第3部
	川畑 泰	ジャパン・タイムズ報道部次長
事務局(業務)		
	神保 尚武	早稲田大学商学部教授
	中村 正枝	日本工学アカデミー事務局
	野口 泰生	国士館大学助教授
事務局長・会計		
	浜野 潔	慶応義塾女子高等学校
会計監査	鑑江 龍一	衆議院事務局渉外部

1991年度日本EWC A会費納入者御氏名(年度毎、納入順) 1992年1月末日現在

1961年度	中司 哲光	菅原 崇光	橋本 義彦	東川 慶雄	須藤 淳弘	仲間 和夫	小林 芳則	大藤 英一	上山 健二	石井 竜	永新 竜	1962年度	大山 綱夫	橋本 貞雄	本間 惠秀	崎濱 正史	村濱 秀史	田村 恭子	世嘉 良栄	三原 正一	中村 和義	出井 津雄	鈴木 伊幹	太田 雄	1963年度	宮田 元靖	馬場 房子	内田 幸成	野口 保晴	桐越 昭弘	村田 勝一	武澤 信一	井上 肇夫	太田 秀静	伊波 佳子	珠玖 清太郎	西村 嘉太	斎藤 勝彦	金子 のぶ	海老原 真敬	丸田 成義	田泉 清人	
平敷 令治	北弘 志三	徳永 淳勝	吉田 知	Gniffke, F.L.	辛島 篤美	尾形 猛	豊田 久承	木村 力雄	1964年度	中村 正謙	見田 光雄	門地 隆三	湊青 井洋	酒井 圭男	梶村 口修	山池 本明	松井 進平	中野 圭二	富山 正治	森稲 葉一	村中 根枝	榎上 吉雄	綿森 宣行	松本 正和	1965年度	福林 昌身	飯塚 成彦	竹村 一子	白井 隆子	遊道 久子	岡 時子	梅高 美和	高村 敦夫	中田 清朝	唐真 二茂	米山 谷	1966年度	新垣 元助	出野 正慧	半藤 正夫	国師 三起子		
大山 敦子	大来 武郎	田場 盛雄	迎町 美子	高江 歳満	茅野 直子	末広 稲子	宮城 文三	土居 健郎	北野 康子	八十川 睦夫	飯田 実一	加藤 雄一	城間 平吉	山田 功秀	芦田 友次	新井 裕丈	黒田 秀男	芦田 友秀	1968年度	高橋 正夫	大城 千栄	仲野 昌和	塩入 徹夫	渡辺 文夫	小武 秀男	屋比 久武	山里 志保	片島 中田	黒田 俊夫	1969年度	三浦 宗嗣	宇留野 修三	後藤 信一	渡辺 宣夫	横田 道和	金田 正生	土井 尚武	神保 尚武	1970年度	鈴木 良子	野田 禮夫	吉田 義法	
1971年度	吉田 恵美子	田村 光規	石原 滋	加藤 多恵子	斎藤 栄二	宮本 明尚	八木 近直	椿 弘次	高 顕	1972年度	細木 高志	高島 昭一	磯本 泰三	佐藤 和美	続木 美子	小村 幹夫	片多 順度	大貫 昇江	宮崎 公讓	後藤 和彦	寛野 壽雄	坂本 悠貴	森戸 由美	田中 春穂	久米 昭元	1975年度	小池 一定	斎藤 吉也	杉浦 達也	伊藤 喜子	大坪 高好	原田 浩一	長谷川 京度	小松 左一郎	1976年度	石川 二郎	合ナ才工	佐藤 正敏	1977年度	村川 行弘	佐多 真徳	酒井 里子	渡辺 晴子
1978年度	太田 幸夫	沼田 眞明	上野 望	高崎 次郎	国井 長次郎	1979年度	中山 行弘	高遠 宏三	西岡 秀三	1980年度	野村 好弘	三和 義彦	中山 惠津子	Duffy, Frank	1981年度	中臣 久則	塚本 和子	岡本 弘治	柿山 中速人	1982年度	井手 生一	梅田 純美	山本 恵里	背黒 忠勝	小泉 明介	江畑 幸吉	飯笹 栄松	高桑 賢治	高野 脩一	1984年度	西山 千守	塚田 高久	水山 雅近	石田 潔之	1985年度	浜野 康子	柄木 典子	津谷 清子	萩原 清子	1988年度	衛藤 藩吉		

お名前が洩れました方がいらっしやいましたらどうぞご容赦の上、ご一報下さい。次回のニューズレターに掲載させていただきます。

1992年度総会：京都開催に決定

ここ数年来、あいついで地方支部が結成されるなどEWCAの活動も全国的になってきました。そこで、これまですべて東京にて開催されてきた総会を東京以外でも開催してはどうかとの意見が聞かれ、昨年より準備をすすめてまいりました。このほど関西支部より本年度の総会を京都にて開きたいとお申し出をいただき、2月24日に開かれた幹事会にて正式に承認されました。

日程は、9月19日(土)夕刻よりを予定しております。詳細につきましては次号ニューズレターでお知らせしたいと思います。

会費納入のお願い

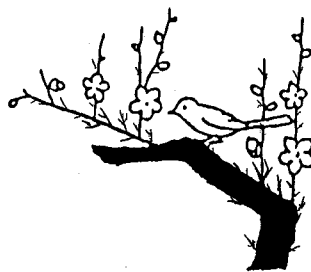
1992年度の会費納入をお願い申し上げます。振込用紙を同封させていただきましたのでご利用ください。会費は5,000円です。

なお、関西、中部の各支部の会員の方からは5,000円の会費のうち3,000円を東京にいただいております。残り2,000円は各支部の口座へお振込みください。

EWCA 関西支部：大 阪：2-125522

日本イースト・ウエストセンター同友会

中部支部：名古屋：4-58210



編集後記

日本イーストウエストセンター同友会の会長を2年間務められた太田さん、お忙しい中を会のために奔走して頂き、本当に有り難うございました。新会長の三和さんにもこれから又大変な2年間が待っています。ハワイのEWCのPresidentも替って、その方針もどのように打ち出されるか、皆が見守っています。我が同友会は全くのボランティア・ベースで運営されているのですが、お陰様で毎年何人かの方が手伝ってやろうと、幹事会に加わって下さいます。遠方の会員の皆様も是非ご意見番としてご参加下されば幸甚に存じます。(MN)

ニューズレター 第8号

編集発行 日本イーストウエストセンター同友会

発行責任者 馬場房子 三和義彦

〒180 東京都武蔵野市境5-24-10

亜細亜大学馬場研究室内

電話 0422-54-3111 内線 2271

タナカ印刷株式会社